TOHOKU UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE
SENDAI・JAPAN
FOUNDED 1872

東北大学医学部
後援会会報

No. 2
2009.3

発行：東北大学医学部後援会
編集委員会　平成 21 年 3 月

医学部後援会が発足して 1 年が経ちました

東北大学医学部後援会会長（法医学分野教授）
舟山 眞人

私の所属する教室には、時々学生がふらりと遊びに来ます。ある日、後援会の話題が出ました。

「今年から医学部に後援会ができたそうですね。」
「そうだね。まだ 1 年目だから活動はそう目立たないかもしれないけれど、一歩一歩着実に、といったところかな。」
「そういえば夏に会報が実家に送られて来たそうです。」
「学生諸君は全国から集まっているので、ご父兄の方々と一堂に会する機会を設けることは難しいから、広報活動は大事なんだ。学生生活のほんの一部ではあるけども、具体的なイメージをご父兄に持っていただこうと、今後、会報はできるだけ写真を多く載せてもらうよう事務局に頼んでいる。もちろんホームページも開設されているよ。」
「広報以外に、主な活動としてどういったものがありますか。」
「君たちの教育環境の向上のためのサポートは、今年に限らず、毎年行う予定だ。」
「でも学生教育の整備は、大学の基本的義務じゃないですか。」
「そうなんだけれども、旧国立大学はそのあたりがかなり遅れていてね。おっと、これは教員としての発言だね。だからご父兄の方々の温かいご支援は本当にありがたいんだ。」
「現在、保健学科の研究・実習棟改築の最中ですね。」
「4 月の完成に併せて、保健学科の先生方に教育的な支援ができるものを依頼している最中なんだ。多分この号が発刊される頃には決まっていると思う。」
「そういえば先輩がリトリートかという研究発表会に参加した際に、後援会からも援助があったと聞きました。」
「あの会は、医学科学生にとっては全員参加の会ではないけれど、積極性のある学生諸君には、それに対する支援もしてあげたいからね。とてもよい経験になるので、君も大学が勧めるいろいろな教育イベントに参加してほしいな。」
「夏の会報には、部活動への支援も書かれていましたけど、僕の所属する部にはありませんでした。」
「実は多くのサークルの主要な活動が年度当初から夏季ということ、それと後援会発足時の予算の関係もあり、次年度からの開始予定になる。ただ、それぞれのサークルへの具体的な配分は、君たち自身が決めることになるんじゃないかな。」
「ところで、さっき昼食を学食で摂ったんですが、長い行列ができていて、みぞれの中、しばらく外で待ってたんです。狭くて席取りにも苦労するし。あの建物ってなんとかなりませんか。」
「厚生施設自体は、僕が学生時代に建てられた 30 年近く前と殆ど変わっていないからなあ。しかも大学院生なども含めると学生数もかなり増加している。もちろん現状のままではいけないと学部長がいろいろ尽力されているので、その中で後援会としてできることは当然、援助していきたいと思う。」

その後も数年後の、そして 10 年後の星陵地区がどう変わるか、夢の話は続きましたが、紙面の関係から現状の活動報告を中心とした内容をご紹介しました。

保健学科 A 棟南側（2 月 4 日撮影）

食堂の様子

保健学科 B 棟改修について

東北大学医学部　副研究科長・副医学部長
進藤 千代彦

改修中の B 棟（A 棟屋上より）

改修中の B 棟（A 棟北側より）

平成 19 年度に行った A 棟改修に続いて、この度、B 棟改修が平成 20 年 10 月から、今春 3 月末の完成を目指して工事が行われています。

B 棟 1 階には、放射線技術科学専攻の実習室を中心に整備され、2 階・3 階は、放射線技術科学専攻及び検査技術科学専攻の共同実験室が作られ、大学院学生の研究環境が充実することになります。

また、看護学専攻を含めた大学院ゼミナール室や教員室が北側を中心に整備されて大きく様変わりする予定となっております。

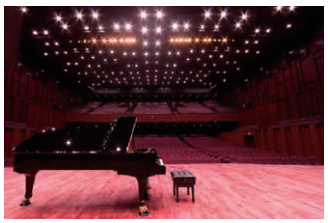
A 棟改修に際して、看護学専攻と検査技術科学専攻の実習室が新たに整備され、現在使用しておりますが、A 棟に設けられなかった放射線技術科学専攻の実習室が、この B 棟 1 階に、従来の面積に 400m^2 の増となり、やや古めかしく歴史を感じさせていた実習室が新しく広く生まれ変わることになり、これにより三専攻の実習室が A 棟・B 棟にわたって完成することになります。

これまで実験系の放射線技術科学専攻や検査技術科学専攻では、十分な実験スペースが無く苦慮しておりましたが、共同実験室として、各専攻に整備されることになり、この問題が解消され、修士課程学生や設置予定の博士課程学生の実験がこの建物内で行うことができ、研究環境においても充実することになります。なお、ゼミナール室も設けてミーティング等も行うことができ、活発な研究の推進が可能となります。

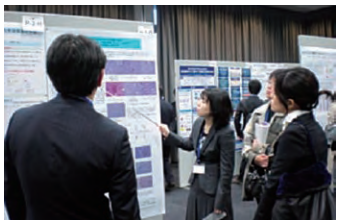
このように、ここ数年間にわたって医療技術短期大学部から保健学科への移行、そして大学院修士課程の設置と目まぐるしく大きく様変わりしてきました。と同時に、医学系研究科保健学専攻としての使命を果すべく、研究機関としての建物の改築が進められてきました。

今回の改修工事の期間中、教員は A 棟の講義室や実習室に間借りしていて、学生の講義や実習に不便をかけている状況が続いておりましたので、このような状態からも今春の完成が待ち望まれるところであります。

第２回東北大学医学系研究科 リトリート研究発表会について



◇平成 20 年 12 月 6 日東北大学百周年記念会館「川内萩ホール」において、大学院教育改革支援プログラム「ルネサンス計画」主催による『第 2 回東北大学医学系研究科リトリート研究発表会』が開催されました。大学院生 97 人参加の中、学部学生 15 人も参加し活発な発表会となりました。



◇山本　雅之医学系研究科長・医学部長の開会あいさつに始まり、午前に口頭発表の第 1 部が行われ、午後はグローバル COE 拠点リーダーの岡　芳知教授の特別講演「神経系による代謝情報ネットワークの発見」を拝聴し、口頭発表第 2 部、ポスター発表、口頭発表第 3 部と続き、充実したプログラムで白熱したディスカッションが繰り広げられました。

◇口頭発表はメインホールで行われ、口頭演題 15 題、ポスター演題 52 題の中から、最優秀演題賞など 5 部門での表彰がありました。また、口頭発表の質疑応答で鋭い質問をされた方の中から優秀質問賞も選ばれ、記念品が贈られました。

大学院生を中心とした研究発表会でありましたが、医学部生 4 人のポスター発表もあり、仲丸　友望さん（医学部 5 年）、神　幸希さん（同 4 年）、三井　英俊さん（同 5 年）、吉野 優樹さん（同 6 年）の活躍に対して医学部後援会より特別演題賞が贈られました。

☆各賞受賞者は、つぎのとおりでした。

【最優秀演題賞】
松本　葉子（形態形成解析）

【優秀演題賞】
有明　恭平（消化器外科学）
細谷　拓真
（腎・高血圧・内分泌学）

【最優秀ポスター賞】
青山　慧（発生分化解析）

【優秀ポスター賞】
工藤 千枝子（癌化学療法）、藤野 直也（先進感染症予防学）

【優秀質問賞】
ウォン･ツーファン（婦人科学）、工藤　千枝子（癌化学療法）
藤野　直也（先進感染症予防学）、小林　枝里（医化学）
海老原　伸（病理形態学）、長谷川　敦史（医化学）

【特別演題賞】
仲丸　友望（医学部 5 年）、神　幸希（医学部 4 年）
三井　英俊（医学部 5 年）、吉野　優樹（医学部 6 年）

医学部オープンキャンパスが開催された

東北大学医学部　オープンキャンパス実行委員会委員長
堀井　明

東北大学では、毎年7月下旬に全学で一斉にオープンキャンパスが開催されますが、2008年（平成20年）は、去る7月30日（水）と31日（木）の二日間行われました。

医学部ではボランティア学生が中心になり、若い学生諸君の感覚をふんだんに盛り込みながら、教職員一体となって企画・運営しています。

保健学科は、発足から5年目を迎えましたが、これまで医学科と別個に企画・運営してきたオープンキャンパスも今年から一緒に運営することになりました。参加者も年々増え、今年は1日目2,064名、2日目1,873名、合計3,937名でした。

参加者のアンケートによると、中学生から高校生・大学生、さらには保護者まで幅広い年齢層の方々が参加されていますが、95%が高校生、特に1・2年生が中心で、自分の進路を考える上で参考にしているものと思われます。北は北海道から南は沖縄まで、全国から集まってきますが、東北各地の高校からチャーターしたバスでやってくる生徒も数多く、宮城県を含む東北地方の高校生が全体の79%でした。

受付風景

また、医学部だけでなく他の学部も訪問する生徒も多く、大学が用意したシャトルバスを使ってキャンパス間をつないでいます。この後援会会報をお読みの保護者の皆様の中にもオープンキャンパスに来られた方がいらっしゃるかもしれません。

医学科及び保健学科のオープンキャンパスについては、次のとおり紹介いたしますが、ホームページ（http://www.med.tohoku.ac.jp/oc2008/index.html）に掲載してますので是非ご覧ください。ご子息、ご子女の活躍する姿を見ることができるかもしれません。

医学科オープンキャンパスについて

東北大学医学部・医学科　分子病理学分野教授
堀井　明

医学科のオープンキャンパスの歴史は1999年に始まりますが、この時は川内キャンパスに出向いて行いました。

翌2000年から、文字通り「キャンパス」を「オープン」にして、「どなたでもいらして下さい」という、本来の姿のオープンキャンパスが開始されましたが、概要説明や模擬講義、質疑応答などが中心で、それ以外の時間は、キャンパス内の許された範囲内で参加者が自由に歩き廻るという形態でした。しかし、高校生たちの多くは研究室や図書館などを外から眺める域を出ず、アンケートには「実際に研究室で何が行われているのか知りたい」「在校生に話を聞いてみたい」などの意見も多く、2005年に試験的にボランティア学生を募り、参加者が在校生と直接会って話をする場を設けました。

この企画はとても好評で、翌2006年から方針を大きく変え、現在のようにボランティア学生が中心になって企画・運営する形式にしました。この試みは全学的にも初めてで、入試企画・広報委員会でも医学科の取り組みは大変高く評価されました。今年、参加したボランティア学生は、1年生から6年生までの88名でした。

実験・実習風景

今年の企画は、「キャンパス案内ツアー」「実験・実習の実演」「教科書展示」「模擬講義」「ビデオ上映」「心肺蘇生法体験」「学生と語ろうコーナー」及び「パネル展示」でした。

心肺蘇生実演

当日の風景をいくつか紹介します。キャンパス案内ツアーでは受付で整理券を配布しますが、大人気のため、午前、午後ともに、短時間のうちに配布終了となります。ツアーでは、医学科の上級生と下級生のペアが20名ほどの参加者を引率して約45分間で医学部内の各所を案内します。高校生だけではとても見られないようなところにも行き、引率学生から説明を受け、大学病院や研究室で教員から説明を聞きながらの見学です。

多くの参加者にとって非常に有意義だったようですが、同時に、引率の学生諸君にとっても新鮮な体験となり、キャンパス内の新発見、再発見の機会になったようです。

心肺蘇生実演では参加者を少人数のグループに分け、学生が大事なポイントを説明しながらの実演でしたので、参加者は何かの際にきっと素早く適切な処置をしてくれるのではないかと思われます。学生による実験・実習もとても好評でしたが、ここでも上級生と下級生とで協力して学生実習をいくつか紹介しました。

医学科の様々な企画を全て紹介することはできませんが、多くの高校生達は新鮮な刺激を受けて帰ったものと思います。

今回は参加者として外から見て、入学後は運営する側として活躍してくれる学生も多数出てくると思います。そのような学生が次の世代のリクルートに活躍し、その過程で自身にとってもプラスになる経験を積んでくれるような良いサイクルを回すことで人材育成にプラスになることを願い、今後、更に発展させたオープンキャンパスを企画・運営して行きたいと考えています。

保健学科オープンキャンパスについて

東北大学医学部・保健学科　家族・発達精神看護学分野教授
塩飽　仁

これまで保健学科のオープンキャンパスは医学科とは別々に行ってきましたが、今年度は保健学科創設以降、初めて医学科との合同開催となり、医学部オープンキャンパスとして生まれ変わりました。

今年度初めての企画として、「在学生による各専攻の特色紹介」を行いました。三つの専攻の専門性やカリキュラム、研究、就職、進学、国家試験などについて、保健学科に在学する学生に具体的にプレゼンテーションを行って説明していただき大変好評でした。

講義・実習室がある校舎の改修完了にあわせて、昨年（2007 年）から始めた体験型の模擬授業については、本年は 2 日間で延べ 13 の実験・演習中心の模擬講義が展開され、一部の会場では入室できない来場者が廊下にあふれるくらい大盛況でした。

また、実習室のすべてを開放して自由に見学していただき、在学生や教員と直接話ができるコーナーを設置しましたが、どの企画も好評のうちに無事終了いたしました。

実験・実習風景

オープンキャンパス開催にあたっては、学部と大学院の学生にボランティアとして参加いただき、延べ 99 名の学部と大学院の学生にお手伝いいただきました。

2009 年（平成 21 年）春には、教員・大学院生研究棟と放射線実習棟の改修・増築が完了しますので、2009 年夏のオープンキャンパスは、さらに多彩な企画が準備され、より多くの方に保健学科とその成果をご覧いただけるものと期待しております。

東北大学医学部入学状況

年度	学　科	入学定員	入学志願者	入　学　者	備　　考
平成 20	医 学 科	100	554 (113)	101　(17)	
	保健学科	144	399 (278)	151　(97)	
		16	62　(46)	17　(13)	3 年次編入学
平成 19	医 学 科	100	508 (108)	105　(14)	
	保健学科	144	549 (330)	146 (100)	
		16	65　(48)	16　(11)	3 年次編入学
平成 18	医 学 科	100	1,054 (176)	104　(10)	
	保健学科	144	476 (285)	144　(93)	
		16	113 (72)	16　(14)	3 年次編入学

※　(　) の数は女子で内数である。

医学部学生の近況について

医学部医学科 1 年
佐藤 大夢

東北大学医学部には、１次修練という特徴的なカリキュラムがあります。

１次修練は医学部に入って初めての専門教育で、夏休み後半に１か月かけて行われます。４～５人のグループに分けられ、大学病院の各科を半日ずつと看護部を１日見学するのが主な内容でした。

私が肝胆膵外科・胃腸外科を見学した時には開腹手術を実際に見ることができ、自分が医学の道を進んでいることを改めて実感させられました。この時期になると、それまで一般教養の授業ばかりで医学部の専門的な授業がないこともあり、医者になるために大学に行っているのだということを忘れがちになるのでとてもよい刺激となりました。修練期間中に、ある医師から医療現場の現状がどうなのか、どう変化しつつあるのかを聞くことができました。その医師はアメリカの病院にいたこともあったので、日本とアメリカの医療の違いも聞くことができました。

また、看護部を見学した時に看護師さんや患者さんとゆっくりお話する機会があり、それぞれ医者とは違う立場から見た現在の医療の問題点について話し合いました。

私は患者さん視点の医療をしたいと考えているので、ここで聞いたことを忘れないつもりです。

大学生活一年目

医学部保健学科看護学専攻 1 年
前川 明宏

入学してからもうすぐ 1 年になる。大学生活最初の 1 年目を自分はどのように過ごしたのだろうか。

春、入学してすぐに、自動車の教習所に通った。普通二輪の免許が欲しかったからだ。

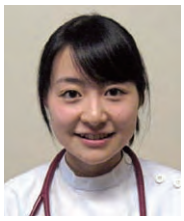
今では、免許を取得し、バンデイット 250V のオーナーである。去年は、サークルの先輩たちとツーリングへ行ったり、看護の友人と仙台港のアウトレットへ行ったりした。今年の夏は、北海道か屋久島へ行きたいと考えている。行って何をしたいということはない。なんとなく行きたいだけだ。なんとなく遠くへ行くなんてことは、大学生活でしかできないだろう。

医学部保健学科看護学専攻の入者数が約 80 人の中で男子は 7 人いる。初対面にもかかわらず、打ち解けるまでに、時間はかからなかった。そのうちの一人に誘われ、保健部セツルメントというサークルに入った。普段は、子供達と遊んだり、病院へ行って、筋ジストロフィーの患者さんの手伝いをするサークルだ。また、夏合宿と称して旅行へ行ったり、大曲の花火大会を見に行ったり、冬合宿と称してスキー & スノボーに行ったり…etc 各種イベントが多いサークルである。さらに、医療短大時代の先輩もしばしば現れて、他世代との交流や、興味深い話を聞くこともできた。

自分のことではないのだが、同じ寮に住む友人は、自転車で日本一周をした。北海道から沖縄まで自転車で走りきったのだ。知らない土地で、知らない人達と出会い、旅をするということに憧れた人は多いだろう。しかし、実際にやった人はどれくらいいるのだろうか？やりたいことを思いっきりやれるのは大学生活だけだと思う。

来年度からは、専門科目が増えて、勉強もさらに忙しくなるだろう。だからこそ貴重な「今」を無駄にしないよう過ごしていきたい。

医学部学生の生活について



医学部医学科 4 年
佐藤　遥

仙台では桜の花がひらき始める 4 月上旬、初々しい新入生の入学とともに、私たち全学生の新学期は、部活動の勧誘に始まります。

現在、東北大学医学部に在学する学生の半数以上が、部活動に励み、その成果を「東医体や全医体、看学戦」といった大きな大会の場で発揮しています。2008 年度 (平成 20 年)、東医体夏季大会の結果を見ますと、今年度参加した 18 競技のうち、2 つの競技が優勝を収めました。大学全体では、東日本の医学部・医科大学 37 大学のうち、総合 7 位という成績を収め、冬季 (3 月) に開催されるスキー競技の結果次第では、さらに上位に上がれる位置にいます。また、東医体は各競技 20 以上の大学の医学部生が一度に集まる機会でもあり、競技を通して各学生が他大学の医学部生との交流を行い友好の輪を拡げています。

大学として、上記のような結果を収めつつ、勉学に励むのは容易ではありません。しかし、部活に所属している多くの学生が、深夜 0 時まで開館している図書館を有効に活用し、同級生と切磋琢磨して学んでいます。また、学内には緑も多く恵まれた環境の中で、私たちひとりひとりが学生生活を送っています。

同級生や先輩・後輩、更には他大学の学生とも交流をもち、医学だけではない多くのことを学び、ひとりの人間として、日々成長しています。勉学だけではなく、多くの人と接し、関係を築くことは、今後ひとの命と向かい合っていく上でとても重要なことです。私たちがこうしていられるのも、130 年以上に渡る東北大学の歴史と、その中で歴代の先輩方が築いてこられた伝統も存在しているためと感じています。

このような歴史ある東北大学の伝統の流れが、途絶えることなくさらに進んでいくよう、ひとりの東北大学の学生として、日々努力し学んでいきたいと思います。

サークル活動

大学生活について

医学部保健学科検査技術学専攻 1 年
高信 純子

私が医療従事者になることを志して東北大学に入学してから、早くも一年が経とうとしています。周りの友人に聞いてみても、この一年はとても早かったという声が非常に多く聞こえてきます。緊張した中でセンター試験や二次試験を受験し、合格発表で自分の受験番号を見つけたときは本当に嬉しかったことを今でも覚えています。それからの一年、今までとは違う環境の中で様々なことを学ぶことができたと思います。

大学は高校までとは違い、自分で時間割を組むことができるので、全学教育科目では自分の興味や関心がある講義を選

択し、日々、教養を深めています。その中でも、第２外国語として選択したスペイン語や心理学は、今までに無かった分野だったので大変興味深いものでした。また、プロジェクターの使用や、大講義室の講義も新鮮でした。その一方で、レポートを書き上げることは難しいと感じました。自分で立論、調査、考察し、それを文章にまとめるということは経験が少なかったからです。専門科目においては、まだ本格的な科目はないので、これからの実験や実習などに不安はありますが、知識や技術の一つ一つを着実に自分のものにしていきたいと思っています。

また、私は医学部の運動部に所属し、週３程度の練習に参加しています。同学年の仲間だけでなく、先輩と様々なことを話すなど、一緒に運動する以外にも楽しく活動しています。それに加えて、大会などで他大学の人とも交流する機会がありました。これも部活動に所属しているからこそできることだと思います。ときどき、練習などが大変な時がありますが、これからも続けていきたいと思っています。

この一年で私は少しだけ成長できたと思います。まだ専門的なことは全くわかりませんが、これからの大学生活を充実したものにするために様々なことに挑戦して経験を積んでいきたいです。さらに、学内だけでなく学外でも見聞を深めていきたいと考えています。

サークル活動

医学部後援会主催の入学記念祝賀会開催について

平成 21 年度医学部（医学科・保健学科）新入学生及び保護者を対象とした、入学記念祝賀会を次のとおり開催することになりました。

- ◆ 日　時：平成 21 年 4 月 7 日（火）　午後 2 時から
- ◆ 会　場：ホテルメトロポリタン仙台・4 階　千代の間
- ◆ 住　所：仙台市青葉区中央 1 丁目 1-1　℡ :022-268-2525
- ◆ その他：事前のお申込みは不要です

入学記念祝賀会（20.4.2）

編集後記

東北大学医学部後援会幹事
齋藤 秀光

医学部後援会が発足しまして、丸 1 年が経過しようとしております。この 1 年で、300 名以上の会員加入及び皆様より多大な後援会会費のご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。この間に、4 月の入学式、7 月のオープンキャンパスや 11 月の大学祭などの行事がありました。

今後、医学科 6 年次学生及び保健学科 4 年次学生は、3 月 25 日（水）に卒業式が予定されております。来年度の新入生に対しては、4 月 7 日（火）に入学式が予定されています。今年も是非、新入生の保護者の皆様には医学部後援会の趣旨をご理解いただき、ご加入いただければと思っております。まだ、ご加入いただいていない 2 年次以降の在校生会員の方々にも後援会会費のご協力を重ねてお願い申し上げます。

皆様から納入いただきました会費は、今年度は年度始めに入学記念祝賀会を開催、その後、リトリート発表会などに助成致しました。さらに平成 20 年度卒業祝賀会や平成 21 年度医学部入学記念祝賀会にも助成する予定でおります。今後、医学科及び保健学科で開催されます種々の行事への助成事業や学生のクラブ活動支援及び教育に要する備品補充などを行い、医学部全体の充実をより一層図っていけるようにしたいと思います。また、新入生や在校生を対象にしました行事にも助成する予定でおります。

ご子息やご息女が医学部に入学後、多くの専門性を短期間に身につけて成長していることを、保護者の皆様は折に触れて感じていらっしゃるのではないでしょうか。入学後の学業だけでなく、学生生活全般に関する悩みや相談ごとに対しては、医学科ではアドバイザー制をとり教授が、保健学科ではチューター制をとり教員が、学生の相談を受けています。その他、全学の学生相談所や保健管理センターでもすべての学生が相談できる体制になっております。さらに医学部では、来年度より、10 名の教職員がメンタルヘルス・ケアの相談員となって、学業、人間関係、心の健康など学生生活上の様々な悩みに関して、対応することになっております。医学部ではこのような複数の相談体制を図ることにより、会員の皆様のご子息やご息女が安心してより充実した学生生活を送ることができるようにと考えております。

医学部後援会でも、医学部学生が、学業だけではなく、クラブ活動やサークル活動にも積極的に参加し、大学生活でしか体験できないような機会をできるだけ多く積み重ねることができるように支援できればと願っております。

また、医学部後援会の更なる発展のために、会員の皆様の寄稿をお待ちしております。是非、後援会事務室宛まで、ご郵送又は電子メールでも結構ですので、ご寄稿してくださいますようよろしくお願いいたします。

東北大学医学部後援会事務室
〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL : 022-717-7870　E-mail : med-koen@med.tohoku.ac.jp
http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/